

雌阿寒岳の火山活動解説資料（平成 24 年 1 月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成21年4月10日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴煙などの表面現象の状況（図1-①～⑥、図2）

ポンマチネシリ96-1火口の噴煙及びその他の火口の噴気の高さは火口縁上200m以下で、低調に経過しました。

・山体内の熱の状況（図3）

96-1火口南側で実施している全磁力連続観測¹⁾によると、2009年7月以降見られていた全磁力値の増加傾向は、2011年1月以降ほぼ停止した状態が続いており、96-1火口南側地下では温度低下が停止している可能性が考えられます。

1) 火山体の南側で全磁力を観測した場合、全磁力値が減少すると火山体内部で温度上昇が、全磁力値が増加すると火山体内部で温度低下が生じていると推定されます。

・地震及び微動の発生状況（図1-⑦⑧、図4）

今期間発生した火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源はポンマチネシリ火口付近及び中マチネシリ火口付近の浅い所に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図5～6）

GPS 連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は観測されませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道大学、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 10mメッシュ（火山標高）』及び『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

今回の火山活動解説資料（平成24年2月分）は平成24年3月8日に発表する予定です。

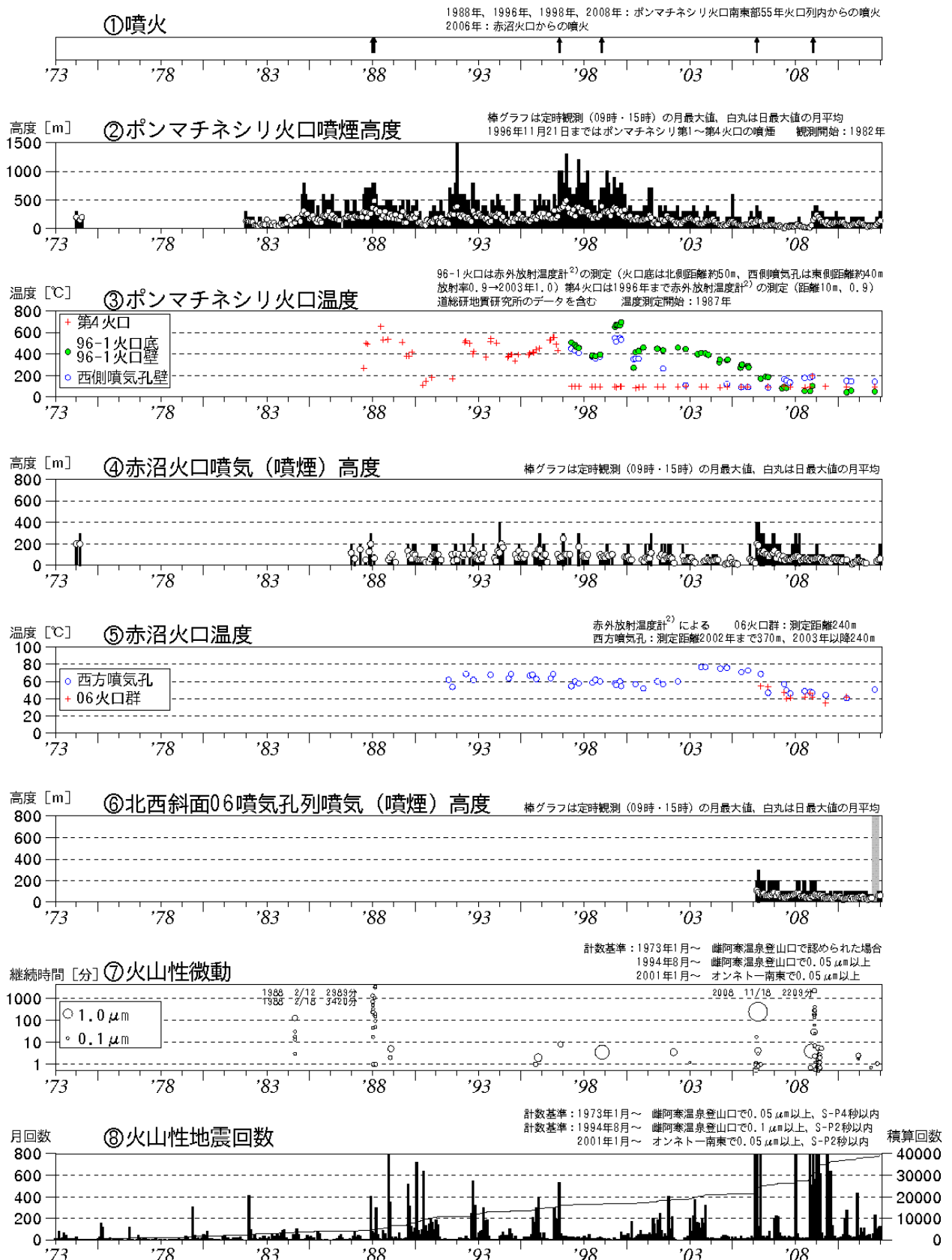


図1※ 雌阿寒岳 火山活動経過図（1973年1月～2011年12月）

⑥：灰色の期間は機器障害のため欠測しています

2) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。



図 2 雌阿寒岳 山体南側の状況（1月18日、^{かみてしべつ}上徹別遠望カメラによる）
白丸内はポンマチネシリ火口の噴煙及び中マチネシリ火口、赤沼火口の噴気

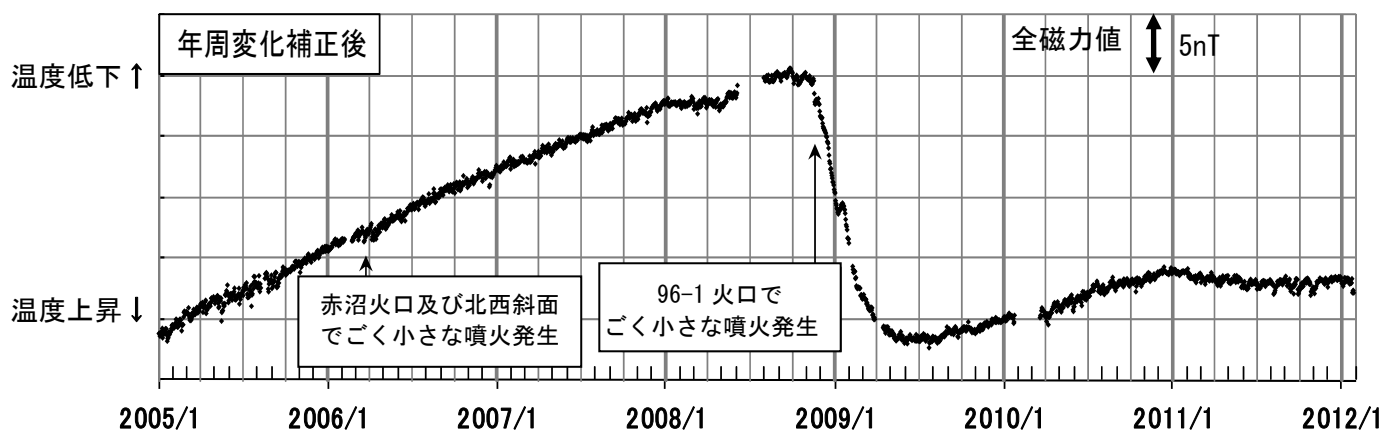
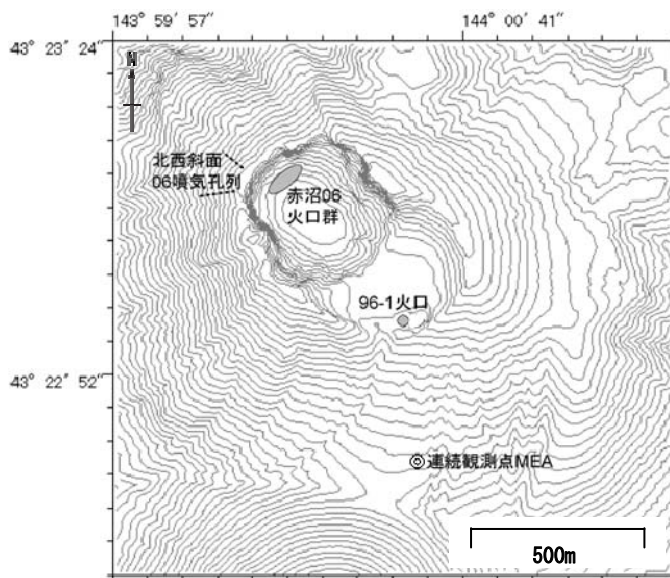


図 3 雌阿寒岳 全磁力連続観測¹⁾による連続観測点 MEA（上図中◎）の全磁力値変化
（2005 年 1 月 1 日～2012 年 1 月 26 日）※グラフの空白部分は欠測

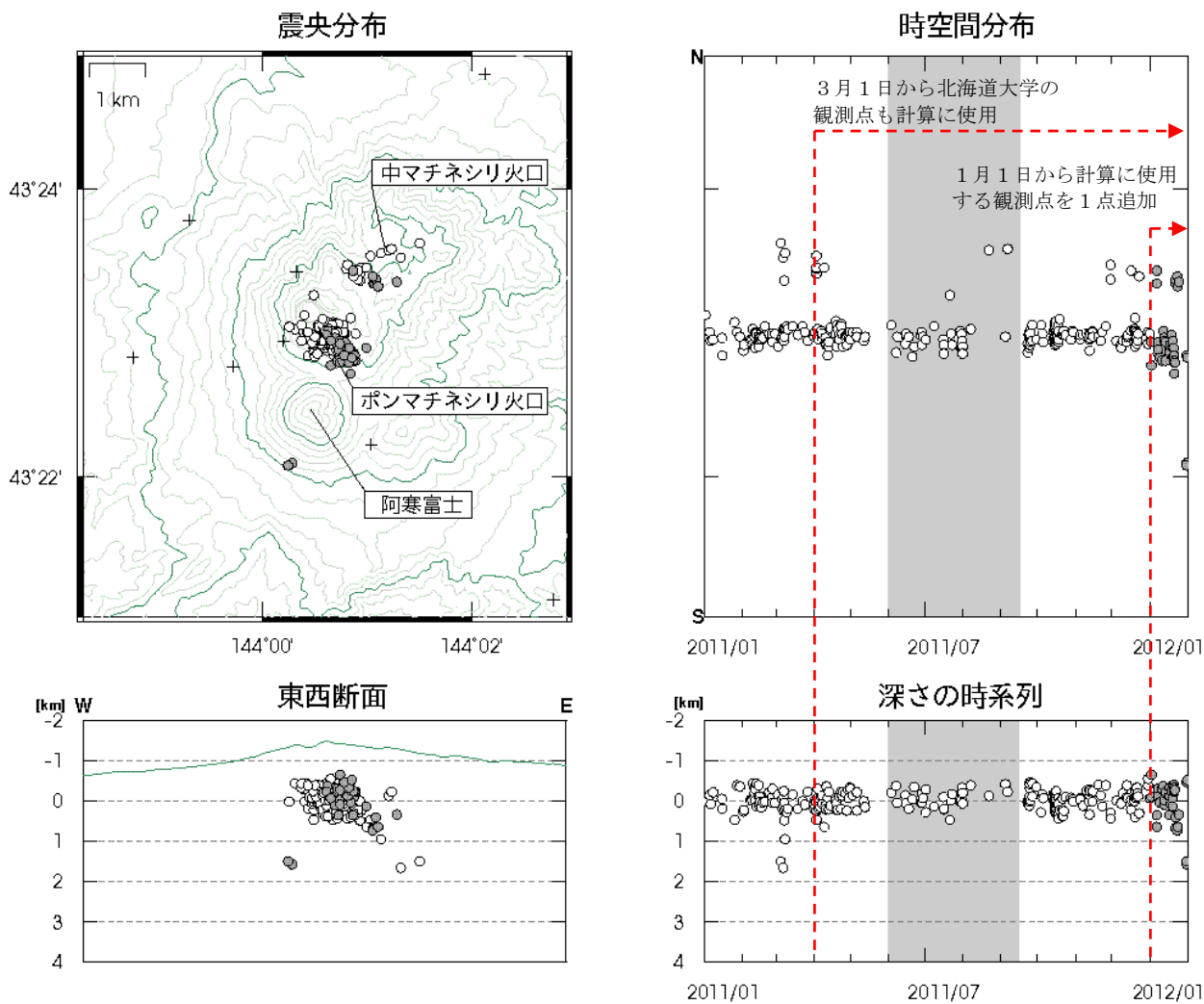


図4※ 雌阿寒岳 火山性地震の震源分布(2011年1月～2012年1月)
 灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます
 ○印：2011年1月～2011年12月の震源
 ●印：2012年1月の震源
 +印：地震観測点

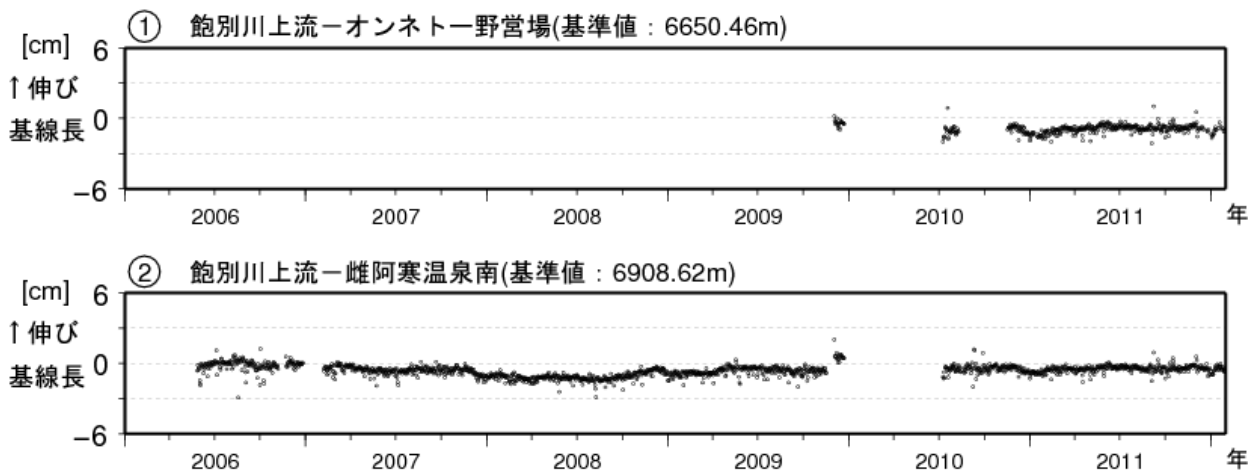


図 5※ 雌阿寒岳 GPS 連続観測による基線長変化 (2006 年 1 月～2012 年 1 月)
 ・グラフの空白部分は欠測 GPS 基線①～②は図 6 の①～②に対応
 ・2010 年 10 月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良し、掲載する基線を一部変更しました

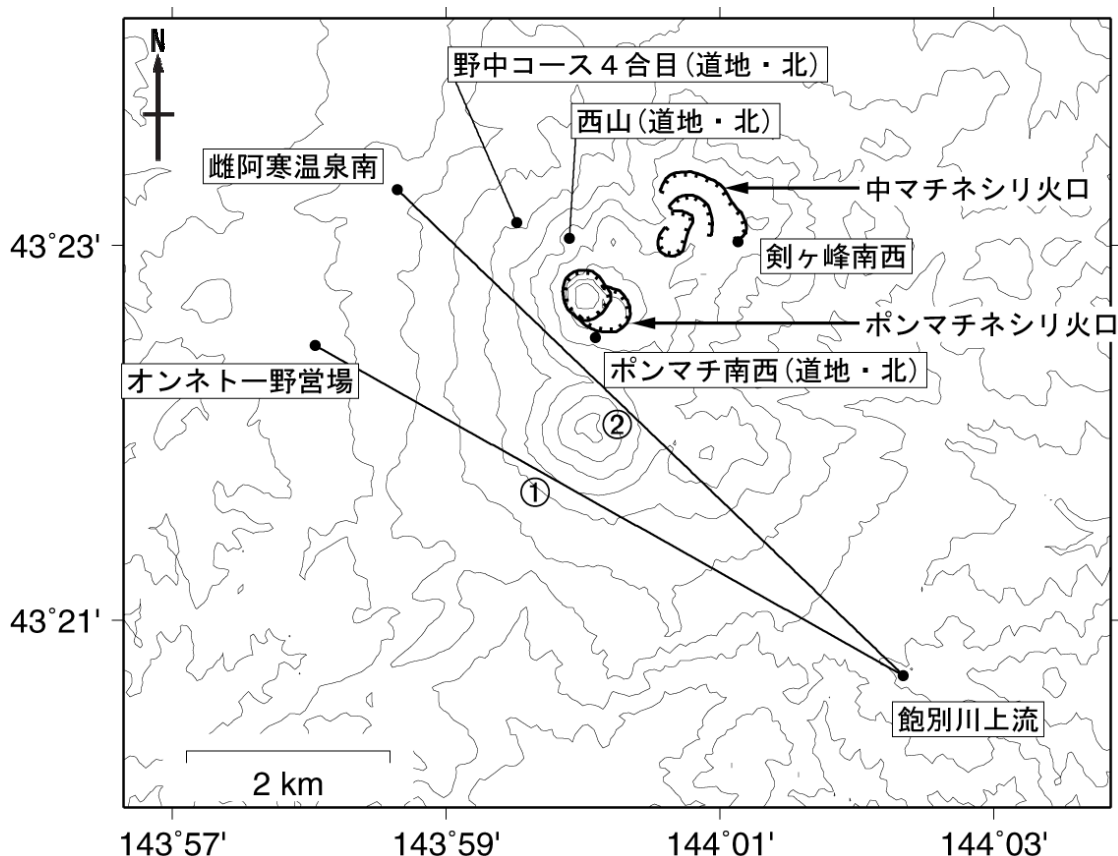


図 6※ 雌阿寒岳 GPS 連続観測点配置図

(北) : 北海道大学

(道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所

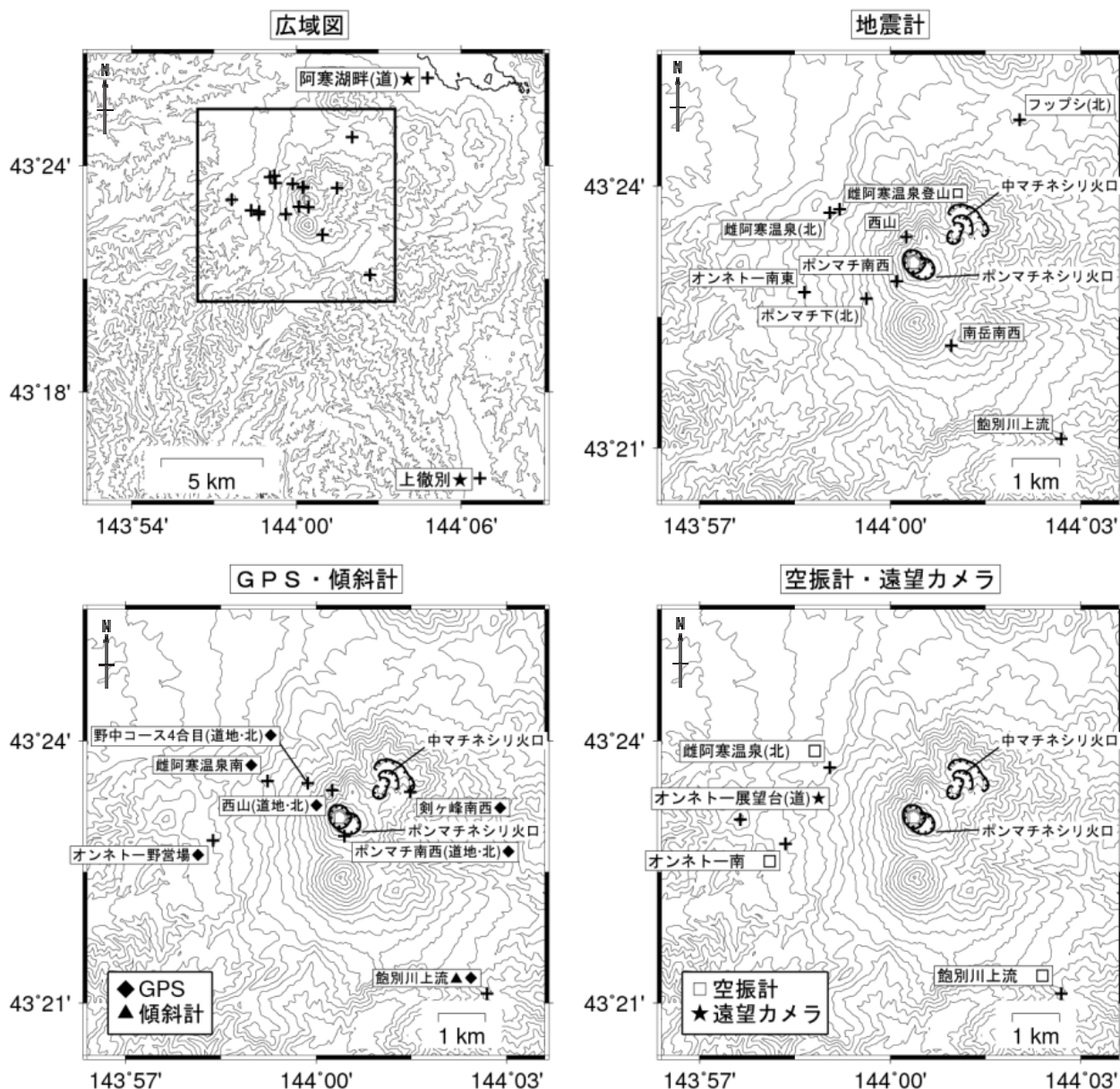


図7 雌阿寒岳 観測点配置図

広域図内の口は地震計、GPS・傾斜計、空振計・遠望カメラそれぞれの範囲を示します

十は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

- (北) : 北海道大学
- (道) : 北海道
- (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所